



小児疾患外科治療センター

講座のアピールポイント

当センターでは低侵襲治療を遂行すべく、腹腔鏡や胸腔鏡を用いた鏡視下手術を取り入れ、小さな創で手術後の回復が早く安全な手術を実施し、さらに形成外科的手技を応用し、整容的側面にも配慮するよう心掛けています。また患児のQOLの向上を図り、退院後も早期に社会生活に問題が生じないよう配慮しております。

講座研究紹介

新生児疾患、消化器疾患（胆道閉鎖症、胆道拡張症等）、小児悪性腫瘍（神経芽細胞腫、腎芽腫、肝芽腫、奇形腫等）の全国的な大規模多施設共同研究に参加し、研究および治療の成果を発表しております。